

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 10 月 31 日（土）14：00～15：36

場 所：旭台生活環境改善センター

出席者：9 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町長：診療科の要望で、他の会場で多く出ているのは、整形外科の午後診療。また、皮膚科、泌尿器科は週 1 日で出張医しか診療していない。この 2 診療科も常勤医師を配置してほしいという要望が出ている。

町民：眼科は週 1 日となっている。町内に眼科の個人病院もあるが、とても混んでいる。

町長：診療科目と診療日については、町内の既存個人病院などと連携をとっていきたい。

町長：小児科の要望も出ている。もともと栗山赤十字病院にあった診療科目だが、そういった要望もある。

町長：建設場所は、国の借入金の制度上、敷地内で建て替える場合は、解体費用を借入金の対象としてもらえるが、移転建て替えの場合は対象にならない。6 億円の解体費用を出すことがで

きないので、現地での建て替えが現実的ではないかと思う。

町長：建て替え候補地として要望が出ているのは、栗山駅周辺や、栗山の地形上中間地点にあたる角田地区、富士の栗山由仁線の栗山町農産物検査場付近はどうかといった意見をいただいている。いろいろな意見を聞き検討していきたいが、現地での建て替えが有力ではないかと考えている。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：めぐみこども園に提出する書類があり、9月に雇用証明書を出したが、11月にまた雇用証明書を提出するように求められた。雇用証明書は会社において作成してもらうが、同じ書類をまたすぐに提出するように言われるのは、どうにかできないものか。

教育総括：来年4月入園のための書類だと思うが、確認して検討する。

（福祉課から質問者へ回答）

今回お願いの雇用証明書は保育園の入園時等に必須となる書類です。

まず、9月に提出をお願いする雇用証明書は、現在の雇用状況を把握するもので、「継続して保育の必要性がある」旨を確認するための定期的確認業務です。

そして、今回11月に提出をお願いする書類は、今後の雇用予定を確認するもので、来年4月の入園の判断のために「保育の必要性」を確認するものとなります。

これら証明書はそれぞれの役割が違うため、改めて提出をお願いしておりますので、結果として同じ内容となる場合が多々あるかと思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、保育園の入園は、保育の必要性を考慮して審査を行っており、保育の必要性がなくなった場合には、その旨を随時町に報告していただき、退園又は幼稚園への変更となりますが、現在の雇用状況を確認する時にそれらが判明することも少なくありません。

これらにより、現在の雇用状況の確認書類の提出と4月の入園の雇用予定の証明書の提出は、保育事業の適正審査や国庫補助事業である旨を考慮すると、それぞれが大変重要な役割を担う業務であり、現状では廃止はできないものと考えております。

町長：別な会場でも、自治会や農事組合で提出する書類で通帳のコピーを毎回付けさせるようなことをどうにかできないかといった意見を受けている。公的なもので添付しなければならないものであれば仕方ないが、見直せるものであれば考えていきたい。

町民：個人病院のことで、にしみこどもクリニックは、あまりインフルエンザなどの検査をしない。岩見沢の病院へ行くときちゃんと検査をしてもらえる。めぐみこども園では、いろいろな子どもが来ているので、検査をしていないことが心配。町長の方から、検査をしてもらえるように話してもらえないか。

日赤改築室長：すぐに検査する病院等と、様子を見る病院等がある。医師の診療方針などで違いがあるように思える。たしかに、西見先生は、自然治癒力などを重要視するところがある。そういう声も上がっているということは話してみる。

町民：今、岩見沢市立病院の小児科診療は制限されているので、検査がすぐにできない状態になっているので、できれば町内で検査してもらえるようお願いしたい。

町長：ご意見があったことは、伝えていきたい。

町民：地域おこし協力隊のくりとくらについて、町からいろいろな支援を受けて経営されていると思うが、いくらくらいお金が使われて、どのように活用されているのか気になる。

町長：すぐには答えられないので、調べてお答えしたい。

副町長：クラウドファンディングでお金を集めて経営をスタートした。町も、ふるさと納税業務を委託している。

町民：どれくらいお金をもらって、どれくらい有効に使われているのかを町民は知らないのではないか。

町長：昨年のふるさと納税額は、過去最高額になり、ふるさと納税の PR に一定の効果があつたと認識している。

町民：地域おこし協力隊として、ふるさと納税の PR はしているようだが、お店は営業を休んでいる。町からのお金があるから休めているのではないか。

副町長：今、新たな事業として、ワンデイシェフなどを行っている。

町民：夜は営業せず、予約制にしている。他の飲食店は、夜も経営している。周りのお店はコロナで大変な時期に一生懸命やっているのに、くりとくらは町からお金をもらっているのに夜は営業しないで休めているのではないか。

副町長：ワンデイシェフの準備などもあるので、お店を開いていない部分でそういった業務をしていると思う。

町長：たしかに偏った経営をしているのではないかといいた声は聞こえてくる。数字的なものは後で報告させていただきたい。町が関わってきているお店なので、しっかりとお伝えできるものは知らせていきたい。

町民：飲食店として、町の見本になりたいとってスタートしていたのに、このような経営が見本といえるのかと疑問に思う。

(経営企画課から質問者へ回答)

ご質問の café&bar くりとくらは、地域おこし協力隊 OB が立ち上げた合同会社オフィスくりおこが、平成 30 年 11 月にオープンし、運営しております。

合同会社オフィスくりおこの立ち上げにあたっては、平成 30 年度に国の地域おこし協力隊の起業補助金及びふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより募った寄附金、併せて 6,695,000 円の補助金を町の会計を通して支出しております。

その他、合同会社オフィスくりおこへは、町の事業の一部を委託しており、平成 31 年 4 月よりふるさと応援寄附金業務、令和 2 年 4 月よりまちなかレストラン創出業務を委託しております。各事業の内容及び元年度の委託費の実績並びに令和 2 年度の委託費の予算額はそれぞれ別紙の通りとなっております。

なお、Café&bar くりとくらの現在の営業状況に関しましては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため営業時間を短縮して運営しておりますことを申し添えいたします。

町民：消防団のことについて、秋の演習で、分団長から来年 1 月の出初式を開催するのかという意見を出したが、出初式は実施するとの回答であった。コロナの状況を考えてもトップの認識は薄いのではないか。もし、出初式で感染拡大が起こったら、仕事を休むことや場合によっては会社を辞めさせられることもあり得る。そういう状況で、出初式に参加してほしいということを私は言えない。

町長：消防団幹部会議の中で、出初式を開催するのは当たり前という意味で言っていたわけではないと思う。例年通りの開催は難しいが、実施すると認識した。コロナ感染対策を取りながら

開催していくという考えだと思う。消防団として、一致団結していくのは一番だと思うが、北海道の警戒レベルなども今後見極めながら判断していかなければならない。式典の出席者を減らすなどの対策は考えなければならぬと思う。

町民：夕張の消防は、コロナ対策をしっかりとしていたにもかかわらずクラスターが発生していたと思う。消防団員として、本業の活動ができなくなるようなことはあってはならない。出初式のような、人が集まるような行事は考えるべきだと思う。

町長：午前中のはしご乗りなどは行わないと聞いている。

町民：町内でコロナの患者は出ていないのか？

町長：私のところに感染者の情報は入っていないので、町内では出ていない。近隣の町でいろいろな噂は流れているが、信ぴょう性があるかどうかは内容を聞けば分かると思う。

町長：栗山赤十字病院のコロナ検査のことで情報提供がある。

日赤改築室長：11月9日から、建物右手にプレハブを設置し、発熱外来を開設した。午前中に電話で予約をし、午後からの診察となる。PCR検査自体はできないが、検体を採取して、検査に出すことができる。2日から5日くらいで検査結果が分かる。また、唾液採取して抗体を調べる抗原検査も行える。1時間くらいで検査結果が出る。発熱などの症状があつて、医師の判断で検査を受ける場合は国が費用を負担する。自分で検査をする場合は、自己負担になるのでPCR検査で2万円、抗原検査は7500円かかる。65歳以上の人が検査をする場合の補助制度を検討している。

町民：コロナに感染したら、岩見沢市立病院に行くことになるのか。

日赤改築室長：病床数が確保できれば、岩見沢市立病院に入院になる。満床であれば、札幌市内のホテルや症状が出ていないのであれば、自宅療養など状況に応じた対応になる。

町長：道外に行く場合や、心配される場合は、町で自主隔離できる建物を用意している。すでに数件利用がある。1回500円で利用することができる。

町民：町は、移住に対する取り組みをかなりPRしてきて、実績も出てきて効果も出ていると思う。一方で町から流出している人をとどめることの取り組みは少ない。栗山で生まれた人を外へ出さないという取り組みは少ないので、町内で育った人を大事にしてもらいたい。町民を採用した町内事業者に対して補助をするといった政策をしてはどうか。外から来る人に町の魅力を見せることも大事だが、栗山で生まれ育った人を外に出さないことを考えていくべきだと、提言させていただきたい。

町長：武田総務大臣が栗山に訪問に来た目的は、栗山の移住政策がうまくいっているということから。栗山で5年間25人を地域おこし協力隊として採用。そのうち13人が町内に定住している。移住コーディネーターなどの効果もあったと思う。

町長：栗山で生まれ育った人が出てしまうのは、町内に就職先がないことが要因としてある。公約の中に入れさせてもらっている、UIターンなどの奨学金返済を一部補助するなどの政策も考えている。また、企業誘致など働く場所の確保などをブランド推進課が取り組みをしている。

町長：子どもたちが栗山に戻って、働ける場所を確保するための企業誘致確保を今後も行っていきたい。民間のアパート家賃が高いといった話もある。町としてもいろいろ考えなければならぬ。ご提言の内容は今後考えていかなければならない。

町民：町長がFacebookなどを更新しているのはよく見ている。しかし、Facebookが見られない人はその情報を見ることができない。パソコンなどを持っていない人は分からない。町長が考えていることをインターネット環境がない人でもわかるようにしてほしい。

町長：Facebook は、東京栗山会から要望を受けてはじめた。やりだすと結構大変。今年度、町ホームページのリニューアルを計画しているので、私の Facebook で更新した記事などもホームページから見られるようにしていきたい。

15：36 終了